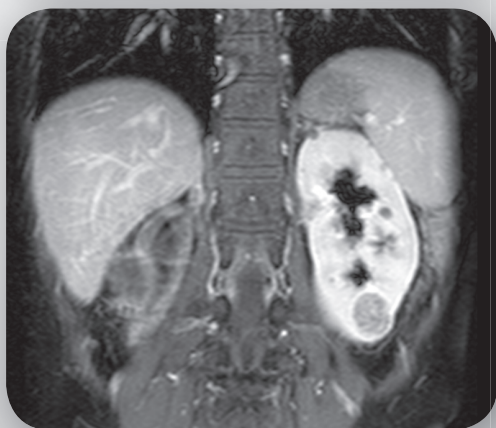
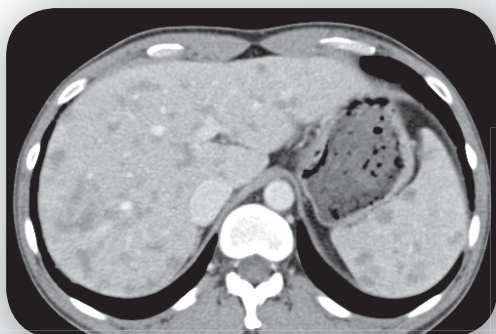


特 集

全身性疾患の窓



(写真：p.1373, 1389, 1402より)

としての臓器

序説

日常診療における各領域のCT/MR読影においては、常に全身性疾患を考慮に入れるべきことはいうまでもない。しかしながら、日々の忙しい読影業務のなかでは、依頼書の目的に「がん転移検索」と書かれてあれば、がんの転移だけで頭がいっぱいになってしまって、さまざまな全身性疾患のことなどどこかに飛んで行ってしまっていることもあろう。大御所の先生方も、若いころにはきっと痛い目にあったことがあるに違いない。

結核・非結核性抗酸菌症、サルコイドーシスなどの肉芽腫性疾患、アミロイドーシスなどの沈着病、リンパ腫関連疾患、などに加えて、昨今では遺伝子異常やHIV感染、自己炎症性疾患、免疫異常、薬剤性障害などによる多彩な病態も、画像から読み取ることが求められている。

脳神経、頭頸部、胸部、消化管・肝・胆・膵、泌尿器、女性生殖器、骨軟部、小児など、領域ごとの日常の読影現場において、どのような所見があった場合に、どの全身疾患をおさえておくべきなのか、わかりやすく解説いただくことを執筆者の先生方をお願いしたが、期待を裏切らない素晴らしい原稿をいただいた。初学者にとってもわかりやすい説明であるだけでなく、先生方ご自身の思い入れや私見、まれな疾患を見つけ出した過程など、自由に盛り込んでいただいたことで、より魅力的な特集になった。

また、編集にあたり横浜旭中央総合病院 放射線科の佐藤秀一先生には大変貴重なアドバイスをいただいた。ご協力いただいたすべての先生方に改めて感謝いたす次第である。

本特集により、「もともとは各領域の別の疾患を疑って画像所見をみていたが、それが実は全身性疾患だった」というような気づきが得られることを期待している。

一色彩子
田島廣之